コロナを越えて飛躍の一年に

公益社団法人 空気調和・衛生工学会
会長　倉渕　隆

明けましておめでとうございます。

2020年にパンデミック認定された新型コロナウイルス感染症も，2023年5月8日に2類から5類感染症に移行し，昨年は徐々にコロナ前の日常を取り戻す一年となりました。世界を見渡すとウクライナやイスラエルなど，エネルギーの安定供給への影響が懸念される紛争が絶えませんが，今年こそ今後の日本と世界が直面する課題に立ち向かう年にしたいと思います。今年も秋元孝之副会長，山本雅洋副会長，山本一郎副会長，理事・監事総勢33名および事務局の皆様と力を合わせ，当学会の発展に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の当学会関連行事としては，5月12日に4年ぶりに社員総会が明治記念館にて開催されました。もっとも代議員に対象を限定としたハイブリッド方式で行われ，対面出席者は第一区の代議員に制限いたしましたが，各種表彰は対面で実施され，久々に成果を上げた皆様を直接表彰する機会を持つことができました。

一方，大会は9月6〜8日に，2020年に予定されていた福井大学にて久々にフルスペックで開催されました。一般講演論文数は673編と，コロナ前の水準を回復し，参加者も1 300名を超えました。公開講演会に引き続き交流会にも多数が参加し，旧交を温めるよい機会となりました。大会ワークショップは4件開催されましたが，カーボンニュートラル関連が3件，COVID-19関連は1件と社会情勢を反映したものとなりました。今年は佐賀にて大会開催を予定しておりますが，大いに盛り上がることを期待しております。

さて，今年度も学会改革の中長期計画の実現については引き続き推進してまいります。学会誌の電子Book化を2022年に実現しましたが，電子Bookならではの機能を生かした検索機能として旬なテーマに関連した記事を迅速に検索できる情報検索プラットフォームを導入いたしました。引き続き，ハイパーリンクなどによる内容の充実を図ってまいります。また，若手研究者の育成と表彰対象の裾野の拡大を考慮し，学会論文賞と技術賞に奨励賞を導入いたしました。次の世代を担う研究者・技術者の皆様がSHASE論文集への投稿や技術賞へ応募することを期待いたします。このほか，便覧や中長期目標の更新を今後どのようにすべきか，検討する必要があります。

次に，当学会が推進すべき課題として，大会でも議論が集中した我が国のカーボンニュートラル実現にいかに貢献していくかが重要です。ZEBの一層の普及が当面の課題になりますが，建物用途ごとのZEBメニューの具体的な提案など，当学会の特性を生かした情報発信が求められております。空気調和・衛生工学が行うべき社会への貢献のあり方を追求し，その存在価値を高めることに注力してまいりたいと考えております。会員の皆様にとって関心のあるテーマについて，積極的な情報発信を推進してまいりますので，皆様がたのご支援，ご協力をよろしくお願い申し上げます。